

第4学年国語科学習指導案

平成26年5月14日5校時(13:35~14:20)

1 単元名	ファンタジーの世界を楽しもう	
教材名	「白いぼうし」	
2 単元の目標		
	○楽しみながら物語を読み、いろいろな本を読もうとしている。	(関心・意欲・態度)
	○場面の移り変わりに注意しながら、中心人物の人柄、情景などについて、叙述をもとに読み取ることができる。	(読むこと)
	○文中の比喩や表現の仕方に着目している。	(言語についての知識・理解・技能)
3 単元の評価規準		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○物語を読んで、心ひかれるところや気になった表現に着目しながら感想を述べようとしている。 ○ファンタジーの世界を楽しみ、自分が選んだ本のおもしろさを伝えようとする。	○場面の情景や登場人物の心情を、語や文を手がかりに、イメージを豊かに広げながら、読むことができる。	○修飾語と被修飾語の関係をとらえ、情景を生き生きと想像することができる。 ○情景を表す言葉や人物の行動、態度を表す言葉に着目し、その意味を理解している。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

「白いぼうし」は、不思議な女の子が登場するといったファンタジーの要素をもった作品である。また、色やにおい、情景などに関する表現も豊かで、季節感も初夏の時期に合っていることから、想像を膨らませながら興味をもって学習できると考える。本作品を学習する上で大切なのは、主人公の心情及び人柄を叙述に基づきながらとらえることであるが、これに傾倒しすぎず、ファンタジーの世界観をとらえることも大切にしたい。

(2) 教材文について

「白いぼうし」は4つの場面構成から成るファンタジーである。

- 1 松井さんと紳士の会話 (夏みかんの存在)
- 2 松井さんと白いぼうしの出会い
- 3 松井さんと女の子の出会い
- 4 松井さんとちよう

主人公松井さんの行動を軸に展開される話の筋はとらえやすく、女の子として現れたちようを助けるという世界観は興味をもって読むことができる。作品全体に主人公であるタクシー運転手松井さんの優しく思いやりのある人柄が溢れている。色彩やにおいを表す言葉や比喩など、豊かな描写を多く含む作品でもあり、叙述をもとに、人物の性格や心情、情景を想像しながら読む力を伸ばすのに適している。

5 主題に迫るために

(1) 4つの思考の型を取り入れた学習活動

【比較】

- ・帽子を見つけお母さんをせかす男の子と松井さんを急がせる女の子の心情の比較。(第3場面)

【選択】

- ・季節、情景、登場人物の心情が分かるところを選択し、サイドラインを引く。
- ・帽子を見つけてお母さんをせかす男の子と、松井さんを急がせる女の子の心情をもっとも端的に表現された箇所を文中から選択する。

【類推】

- ・松井さんの夏みかんに対する思いを類推する。(第1場面)
→「この車にのせてきたのですよ。」「においまでわたしにとどけたかったのでしょうか。」などの表現から、その思いや人柄について類推する。
- ・松井さんが夏みかんに白いぼうしをかぶせた理由を類推する。(第2場面)
- ・車を止めて、まどの外をみて松井さんが考えたことを類推する。(第4場面)
- ・最後の一文、「車の中には、～」は作品の中でどのような意味をもっているのか類推する。

【関係付け】

- ・男の子の、つかまえたちようへの思いを、児童自らの体験と関係付けて想像する。
- ・女の子がちようであると考える根拠について、叙述に根拠付けて考える。

(2) 学習活動の工夫

- ア ワークシート…サイドラインを引いたり、書きこんだりしやすいようにワークシートを用いた。
- イ 課題設定…初発の感想から課題を設定する。
- ウ 課題の明確化…毎時間ごとの課題を明確にとらえさせる。
- エ 揭示の工夫…前時までの学習をいつでもふり返ることができる。
- オ 言葉の貯金箱…毎時、児童が気に入った言語表現を選び、各自の「言葉の貯金箱」に入れていくことで、本单元以外の学習時にも学んだことを生かせるようにする。

6 学習指導計画（全9時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読み、初発の感想を書く。	・視点（疑問、全体で考えたいこと）を明確にした上で感想をまとめ、学級内で交流を行う。	【閲】「白いぼうし」を読み、初発の感想を観点に沿って書いている。 (ワークシート)
	2	登場人物や場面設定について理解する。	・10の観点に基づき、物語の構成を捉える。	【読】物語のあらすじをつかみ、ワークシートにまとめている。 (ワークシート)
2	3	松井さんとお客様さんの会話や様子に着目し、松井さんの夏みかんへの思いや人柄を読み取る。	松井さんの夏みかんへの思いについて考えよう。（第一課題） ・松井さんの言動から、夏みかんへの思いを読み取る。【類推】 松井さんはどのような人柄だろうか。また、それは文章のどの部分の表現から読み取れるだろうか。（第二課題） ・松井さんの人柄が分かる所にサイドラインを引かせ、叙述を根拠にして人柄と結び付ける。【比較、類推】	【読】松井さんの言動から「夏みかん」への思いを理解している。（発表・ワークシート）

	4	松井さんの言葉や行動に着目し、松井さんの男の子に対する優しい気持ちや人柄を読み取る。	<p>松井さんの男の子に対する気持ちを読み取ろう。 (第一課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「肩をすばめて」の表現に着目し、動作化を通して心情に迫る。【類推】 <p>なぜ松井さんは夏みかんをちょうどの代わりに置いたのだろうか。 (第二課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まるで、あたたかい日の光を～」の表現に着目し、松井さんの夏みかんへの思いを整理する。【類推】 <p>(言葉の力) 擬人法</p>	<p>【読】ぼうしの中に夏みかんを置く行動に、松井さんの優しさを読み取ることができる。(発表・ワークシート)</p>
	5	松井さんと女の子の会話や行動に着目して、松井さんの女の子に対する優しい気持ちや人柄を読み取る。	<p>登場人物(松井さん、男の子、女の子)の気持ちを読み取ろう。 (第一課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に、男の子と女の子の対照的な態度に着目する。【比較】 <p>男の子と女の子の気持ちがもっとも強く表れているのはどこだろうか。 (第二課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐいぐい」と「せかせか」に着目する。【関係付け】 	<p>【読】二人の行動の比較から、その心情を読み取り、また、その根拠となる叙述と関係付けることができる。(発表・ワークシート)</p>
6 (本時)	7	第4場面の幻想的な情景を味わいながら、女の子とちょうどを結び付ける表現について考える。また、文末の余韻を残す一分について、その意味や効果を考える。	<p>女の子がちょうどだとわかるところはどこだろう。 (第一課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までにおさえてきた伏線について確認した上で、第4場面から女の子がちょうどであると判断する根拠を探す。【選択】 <p>最後の一文はなぜ書かれたのだろう。また、どのような意味をもつているのだろうか。 (第二課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし最後の一文がなかった場合も想定させながら、その効果について考える。【類推】 <p>(言葉の力) 物語の余韻を感じさせる一文。</p>	<p>【読】物語の余韻を、文末の表現から楽しんでいる。</p> <p>(発表・ワークシート)</p>
3	7	興味をもった本を読み、紹介カードを書く。	<p>作者の他の作品を読み、紹介カードを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったあまんきみこさんの他作品を読み、物語の「よさ」や「おもしろさ」に着目して紹介カードを書く。 	<p>【読】あまんきみこさんの作品に興味をもち、ファンタジーの世界を楽しみながら読むことができる。(観察)</p>
	8	自分が選んだ本について、おもしろさを紹介する。	<p>自分が選んだ本について、おもしろさを紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で作成した紹介カードを元に、発表会を行い、意見の交流を図る。 	<p>【読】ファンタジーの世界を楽しみ、自分が選んだ本のおもしろさを伝えようとしている。</p> <p>(発表)</p>

7. 本時の指導（6／8時間目）

(1) 本時の目標

- ・女の子がちょうどであると考える根拠をまとめ、児童各自で明確なものとする。
- ・物語の文末の叙述（余韻を味わう表現）から、物語全体の暖かさを感じることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準
導入	<p>1 前時の学習をふり返る。</p> <p>2 第四場面を音読し、情景を想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○第5時の学習をふり返り、男の子と女の子の対照的な態度の確認をする。 ○役割音読をグループ別に行う。 	
展開	<p>3 学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 女の子がちょうどわかるところはどこだろう。（第一課題） </div> <p>4 これまでに女の子とちょうどを結び付ける伏線についておさえてきたが、改めてそれを確認し、第4場面で新たに女の子がちょうどであると思わせる表現を探す。</p> <p>(1) 女の子がちょうどわかるところにサイドラインを引き、ワークシートに根拠を順に記入していく。【選択】</p> <p>(2) 発表、交流を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 最後の一文はなぜ書かれたのだろう。どのような意味をもっているのだろうか。（第二課題） </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ちょうどが女の子だと考えた根拠を、時系列順に挙げ、整理させる。 <p>【読】自分の考えに明確な根拠付けができる。 （ワークシート・発表）</p>	
まとめ	<p>5 (1) 最後の一文がある場合と無い場合、どちらが良いと考えるか、個々で考え、挙手をする。</p> <p>(2) どちらの場合も、そのように考えた理由をワークシートにまとめる。</p> <p>(3) 意見を発表し、どのような意味を持つのか考える。</p> <p><言葉の力></p> <p>物語の余韻を感じさせる一文。</p> <p>6 本時の学習のまとめをする。 →第4場面の「言葉の貯金」を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○結論づけることはできないが、叙述を根拠に類推できたことを評価する。 ○文末の表現を「味わいの表現」として、その効果を認識させる。 ○自分のお気に入りの文学的表現に興味をもたせる。 	<p>【読】物語に余韻をもたせる文末の表現について、その意義を理解している。 （ワークシート・発表）</p>